

平成30年度 特色ある教育活動

共に育てよう、共に育とう
～さまざまな人との関わりやつながりを通して～

越前市国高幼稚園

本園は、越前市東部に広がる田園地帯や自然豊かな村国山の他、増加傾向にある新興住宅地の中に位置している。また、国道8号線に沿って商業施設が栄え、交通量も激しい。

園児数は市内公立幼稚園の中でも多く、3、4、5歳児、各年齢毎に一定数の園児集団が保たれている。

集団の中では、「人と協力する力」「がまんする力」などが育つと一般的に思われている。しかし、これらの力は、ただ人数さえいれば育つものでもない。また、多人数がゆえ、活動範囲や内容を制限せざるをえない場合もある。本園の成果ある活動場面を紹介していく。

●人は大事な環境●

入園間もない頃は、「したい」「ほしい」思いがぶつかり合う場面がよく起こる。教師がお互いの思いをきちんと聞いて受け止め、お互いの思いを伝えてあげる。このような場面を通し、友達と関わっていくことで、一緒に遊ぶ楽しさを味わっていく。保護者の手を離れた場の中で、教師はとても大切な存在だ。自分の思いをまだ上手に言葉にできない3歳児はただ抱いて受け止めることで、落ち着き、また自ら遊びだす。このように、受け止めてもらえる経験をしたり、そのような教師の関わりを見たりしていくと、友達に「どうしたの?」「おいで」「いっしょにしよう」などと、声を掛けられるやさしさが育っていく。また、送迎時の保護者同士、保護者と教師、園生活の中での教師同士の和やかに仲良さそうに話す姿を見て、その関係の心地よさを感じ取り、自然と友達と仲良くしていく。本園ではそんな人との関わりを、子ども達の育ちにとって大事な環境の一つとして大切にしている。

●助け合う姿を見て学び、次につなげていく●

園の大型行事の中に園内運動会(9月)や餅つき会(12月)がある。職員の力だけでは、できる範囲も限られている。しかし、保護者による後援会や園児の祖父母にも関わってもらうことで、子ども達の意欲ややる気、興味や関心などを育て、力を合わせる、共に楽しむ経験を豊かにすることができる。

日頃より、教師は子ども達と共に考え、つくり、活動を積み上げているが、運動会では園児の頑張りをしっかり保護者に受け止めてもらえるよう、取組の過程を伝えている。また、競技担当の保護者に一緒に役割を担ってもらう中で、その保護者は頑張る子ども達のために役割をしっかりと果たそうと熱心に取り組んでくださる。その様子を見て、子ども達は緊張を押しさえ、いつも以上の頑張りを見せる。園児だけでなく手伝ってくださった保護者や応援して下さった方々それぞれが、達成感を味わった。



「ここがよく見える」と
ポスターを、自分達で貼ります



どうしたら勝てるか、作戦を相談し、何度もやってみます



かご持ち、数え役、競技参加の保護者、
応援の子ども達…みんなで盛り上げます



運動会後も、未就園児に披露したり、
ゲームを再現し楽しんでもらいます



餅つき会は、慣れない作業が多く、経験豊かな祖父母方は有難い存在だ。そして、準備から当日の分担作業、片付けまで、多くの役員や保護者の協力がある活動と実感している。いただくお餅のおいしさだけでなく、餅をつく杵振りに合わせて大きく声掛けする心地よさも味わう場になった。また、祖父母からの提案で未経験ママ達も、臼取りにチャレンジし大興奮された。こうして、園行事に関わってもらうことで、園と保護者の関係が深まり、保護者同士も仲良くなっていく。

蒸し、つき、うすとり…助けてもらいました



おじいちゃんががんばれ！おかあさんががんばれ！！

●ちびっ子同士の学び合い●

なわとびは一人遊びのようだが、人のかかわりが大きく響くことを感じる遊びでもある。運動遊びは学年毎に広い遊戯室を交代して遊ぶようにするが、長い園内の廊下で並んで跳ぶこともある。それを、危険なこととだけ捉えず教師が関わる活動とすることで、小さい子が年上の子達の上達や成功を見て刺激され、挑戦する子がどんどん増えていく。



時には先生と
真剣勝負です

飼育、栽培活動は、限られた場所で5歳児だけの活動になりがちだが、収穫物をクッキングして3、4歳児にごちそうしたり、未就園児親子と共に味わう場を設けたりすることで、感心してもらえた5歳児達は満足感も一緒に味わう活動になった。



「おいしいね～」
「どうやって
作ったの？」
「え～っとね・・・」



●●一年を振り返り●●

このように子ども達の育ちには、さまざまな人と関わる事がとても大事な環境であり、一連のつながりを通し、そこに関わった人も共に育っていると実感した。これからも、園は子ども達を育てるだけでなく、保護者も教師も共に育ち合える場であるよう探っていきたい。